



本丸だより

令和3年度 第2号

令和3年5月25日(火)

新発田市立本丸中学校

新発田市緑町2-7-22

TEL 0254-22-2525

FAX 0254-22-0342

<https://honmaru.shibata.ed.jp/>



逆境で生きる 力を発揮する

～ 「意味」を見いだして ～

校長 三浦 学

さわやかな陽光の中、笑顔がはじけた「八里を歩く」。躍動する部活動や授業。日々活躍する生徒会。長期化する新型コロナウイルスの逆境に負けず、各部活動も来月の下越地区大会から始まる公式戦に向けて休みの日も努力を積み重ねています。4月5月、私は各部の対外試合の応援にまわり、感染予防に万全を期しながら、ひたむきに取り組む生徒の姿を見ることができました。

困難な状況の中で、生徒の諸活動を支え続けていただいております保護者、ご家族、地域、市当局の皆様には深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

保護者、ご家族の皆様へのお願いです。お子さんへの「寄り添い」をお願いいたします。6月は梅雨にも入り、心が苦しくなりやすいときです。多感で変化の激しい中学生。まして今年も新型コロナウイルスによるストレスや不安、疲れが重なっています。悩んだりイライラしたり弱音をはいたりするのも当然で、弱いわけでも恥ずかしいことでも、なまけているわけでもありません。学校では、そんなときは誰かに話をしよう、苦しさを伝えよう。相談しよう。遠慮せず頼っていい。聞いた人は寄り添い受け止めて、大人につなげよう、と話をします。

ご家庭でもよく見ていただき気付いたら、話を聞き、気持ちを受け止める。つらい気持ちに寄り添い、心配していることを伝える。そして、学校にもできるだけ早く伝えていただければと思います。よろしくをお願いいたします。

V.E.フランクルの『夜と霧』。フランクルさんは、20世紀最大の悲劇といわれるナチスのアウシュヴィッツ強制収容所等生き延びた心理学者で医師。その時の体験を記した本が『夜と霧』です。まさに地獄といえる過酷な環境の中で生き残る道は、心の支え、つまり生きる目的をもつこと。どんな状況でも、今を大事にして自分の本分を尽くし、人の役に立つこと。そこに生きがいを見いだすことが大事なのではないかと考えたのです。(参考NHK「100分de名著」)

諸富祥彦さんは、フランクル心理学からこう述べています。「自分が人生でほんとうになすべきことを見いだすことほど、人間を強くするものはない」、そして「何事にも耐えていくことのできる強さを発揮し始める」。「リストラ、大病、離婚や死別などのつらく、苦しい出来事があった時、・・・「なぜ私の人生にこんなことが起きるのだ?」「こんな苦しい出来事が起きる意味は?」と天を仰いで言葉にならない問いを發することがあります。それは私たち人間が「意味」を求める生き物だからです。人間は「意味」なしに、つらく苦しい毎日を耐えしのんでいくことはできません。逆に、その「意味」がわかれば、たいていのことは耐えていけるものです」と(松山 淳 著『君が生きる意味 人生を劇的に変えるフランクルの教え』解説)。

松山 淳さんはこう記しています。「この世界のどこかに見てくれている人がいる。・・・今、できることが必ずある。そのできることを無我夢中でやっていたら、人生は意味で満たされる。どんな出来事にも、どんな時にも、人生に意味がある」「人って「みんなのために」って思ったほうが強くなれるんですね」。

山口 周さんは、人は「意味」を見いだすことで、能力を発揮すること、やる気、モチベーションを高めることができる、動機付けられると言っています(『ニュータイプの時代』)。

6月1日、2日の第1回定期テスト。8月17日からの全国大会につながる下越地区大会等に、自分なりの「意味」を見だし、大いにやる気を高め力を発揮してほしいと思います。生徒を見守り、寄り添っていただいております全ての皆様から、今後ともご支援をいただきますようお願い申し上げます。

